

へをば、三浦介上總之介、たがへたと云々、

武士の矢なみつくろふこての上に霞たばしる那須の篠原サハラ

二子山 櫻ヶ池 標茅原 黒戸の濱路 走湯ハシユの瀧 中禪寺湖 名所にはあらず、眺望無雙の

地、利根川の水上也、

〔下野國誌二名所勝地〕黒髮山 都賀郡、日光山の奥にあり、當國第一の高山にて、遙に武藏、下總、常陸

等の國々よりもみゆるなり、世俗は男體山とも呼なり、○中

ぬば玉万葉集七 無名の玄髮山を朝こえて木の下露にぬれにけるかも

ぬば玉同十一 柿本人麿の黒髮山の山菅に小雨ふりしきますますくぞおもふ○中

二荒山フタラヤマ 日光山の古名にて、もと補陀洛山なるを、歌にはふたら山とよみ來れり、委しくは、下の

佛寺部の日光山の條に記したり、

下野蜻蛉日記 右大將道綱母の日記なりや桶右大將道綱母の日記なりのふたらをあぢきなきかげもうかばぬ鏡とぞみる○中

歌濱 中禪寺の湖邊にあり、委しくは佛寺部の日光山の條に記す、○中 回國雜記に、今宵はこゝに勝れ

侍りき、渺漫たる湖水侍り、歌の濱といへる所に、紅葉色をあらそひて、月に映じ、侍れば、船に乗りてとあり、

敷島の歌の濱べに船よせて紅葉をかざし月を見るかな○中

瀧尾タキオ 三本杉 日光山の瀧尾權現の鎮まりいます所なり、三本杉と云古木ならびたてり、委しくは佛寺部日光山の條に記せり、○中 回國雜記に、瀧尾と申侍るば、無雙の靈神にてまし、

世々を経てむすぶ契りの末なれやこの瀧の尾の瀧の白糸○中

山菅橋ヤマスダハシ 日光山の入口にあり、今は神橋カミハシと唱ふるなり、其下の流れは大谷川といふ、中禪寺の湖

より落て、末はきぬ川に入なり、八雲御抄に、下野の菅橋とあり、枕草子に、山菅の橋名をき、たる

おかしとあり、○中